

# 音楽

## 児童生徒が自ら感性を働かせ、音楽活動によって生まれる 楽しさや喜びを実感する授業づくり

「音楽科の見方・考え方」とは

※（ ）内は中学校

音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージと感情、生活や（社会、伝統や）文化などと関連付けること

### 授業づくりのポイント

※数字は学習の例と対応

- ① 次の点を踏まえ、児童生徒の実態把握と十分な教材研究に基づいた題材や授業を構想する。
  - ・指導する事項やその題材において思考・判断のよりどころとなる主な要素を明確にする。
  - ・児童生徒の思考の流れを具体的に想定する。
  - ・教材研究の際に、教師が教材曲を実際に表現したり鑑賞したりするなどして捉えた教材の特徴を踏まえる。
- ② 音楽活動と言語活動を行き来させながら、表現の工夫や鑑賞を行う活動を取り入れる。
- ③ 学習内容の見通しをもったり、学習を通じた自分の変容を実感したりできるように、実際に表現したり鑑賞したりする音楽活動を設定する。
- ④ 他者の感じ方や考え方を共有・共感しながら、自分の感じ方や考え方を深めていく場を設定する。

### 工夫することにより表現が変わっていく楽しさを実感する学習の例

【小学校第4学年】

題材名「曲の特徴をとらえて表現しよう」 教材名「とんび」

指導事項：A表現 (1)歌唱 ア イ ウ (イ) 共通事項 (1)

思考・判断のよりどころとなる主な要素：強弱 よびかけとこたえ

#### 試行錯誤しながら表現の工夫をする場面（ペア）

S1：「ピンヨロー」のところは、とんびが鳴きながら飛んでいる様子を歌っていて面白いなあ。「ピンヨロー」の繰り返しがよくかきこたえているみたいだから、2羽のとんびが一緒に話しているように歌ってみよう。



S1：♪ピ～ンヨロ～ピ～ンヨロ～  
ピ～ンヨロ～ピ～ンヨロ～  
この歌い方で伝わるかな。

S2：全部同じ強さだから、話しているように聞こえないなあ。強弱を変えてみたらどうかな。

S1：そうか。よびかける方を *f*、こたえる方を *p* にして歌ってみるね。  
♪ピ～ンヨロ～ ピ～ンヨロ～ ピ～ンヨロ～ ピ～ンヨロ～

S2：強弱の変化は付いたけど、こたえる方の「ピンヨロー」が弱すぎるから、こたえている感じがしないなあ。どうすればいいのかなあ。



T：S1さんは、強弱を変化させてどのような様子を表したいのですか。

S1：元気によびかけたとんびに、もう1羽のとんびが優しくこたえる様子を表したいです。

S2：こたえる方を *mp* にしたらどうかな。

S1：なるほど。S2さんの考えた強弱を付けて、もう一度試してみよう。  
♪ピ～ンヨロ～ ピ～ンヨロ～ ピ～ンヨロ～ ピ～ンヨロ～

T：S2さん、この強弱の付け方でS1さんの表したい様子が伝わりましたか。

S2：こたえる方を *mp* にしたら、優しくこたえているように感じました。

#### それぞれの考えを発表し、全体で共有・共感する場面（一斉）



S3：僕は、とんびが鳴きながら去って行く様子を表したいので *f* からだんだん弱くして最後の「ピンヨロー」は *p* にしました。  
♪ピ～ンヨロ～ ピ～ンヨロ～ ピ～ンヨロ～ ピ～ンヨロ～

T：強弱を付けて距離の違いを表すのですね。S3さんが考えた強弱を付けて、みんなで一緒に歌ってみましょう。



T：歌ってみてどうでしたか。

S4：だんだん弱くしたら遠くなっていく感じがしました。強弱を変えると、距離の感じ方を変えることができると思いました。いい考えだなあと思います。

歌唱の学習は、ア、イ、ウの各事項を組み合わせた題材を設定して行います。ウの事項については、(ア)、(イ)、(ウ)のうち本題材の学習の内容に合わせて「(イ)呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能」を選択します。①

強弱の付け方を工夫することにより表現が変わっていく楽しさを実感できるよう、実際に歌いながら試行錯誤する場を設定します。③

根拠を問うなどして表したい思いや工夫したことの意図を明確にし、それを基に、聴き手が客観的に検証することができるよう働きかけます。②④

友達が工夫したことよさや面白さを実感することができるように、その工夫を基に実際に歌う場を設定します。④

強弱の付け方を工夫した表現が曲想や表したい思いに合っているかについて、児童自身が判断できるように問いかけます。③